



ライブ
配信



日・英同時通訳
あり



JIRCAS 創立 50 周年記念 国際シンポジウム2020プログラム

ポストコロナ時代の
グローバルフードシステムを
とりまく地球規模課題の展開と
農林水産業研究における国際連携の役割

登録料無料

令和2年11月10日(火) 15:00~17:30

お申し込み

ホームページから事前にお申し込み
をお願いいたします。

申込受付中
申し込み締切

11月4日(水) 17:00

参加費無料



<https://www.jircas.go.jp/ja/symposium/2020/e20201110>

オンライン
登録フォーム

<https://www.jircas.go.jp/ja/form/intlsymp2020>

主催：国立研究開発法人 国際農林水産業研究センター(国際農研)
後援：農林水産省

《お問い合わせ》〒305-8686
茨城県つくば市大わし 1-1
国際農研 企画連携部 情報広報室

Tel.029-838-6708
<https://www.jircas.go.jp/ja/form/inquiry>

JIRCAS
国際農研



JIRCAS 50 国際シンポジウム2020

ポストコロナ時代のグローバルフードシステムをとりまく
地球規模課題の展開と農林水産業研究における国際連携の役割



プログラム

15:00 - 15:10

開会の言葉

強靱で公平かつ持続的なフードシステム構築のための国際連携

岩永 勝 国際農研(JIRCAS) 理事長



15:10 - 15:20

国際農研への期待

菱沼 義久 農林水産省 農林水産技術会議事務局長

15:20 - 15:30

Kundhavi Kadiresan CGIAR システム機構 グローバル・エンゲージメント&イノベーション代表取締役

15:30 - 15:50

講演1

JIRCAS 50周年-農林水産業研究における国際連携を振り返って

小山 修 国際農研(JIRCAS) 理事



15:50 - 16:20

カウンターパート祝辞

松田 敦郎 農研機構(NARO) 理事(国際連携、知財・国際標準化、広報担当)

Sun Tan 中国農科院(CAAS) 副院長

Pichet Wiriyapaha タイ国 農業協同組合省 農業局 局長

Mamoudou Traoré ブルキナファソ環境農業研究所(INERA) 所長代理、自然資源管理・生産システム部部長

Lala Razafinjara マダガスカル国立農村開発応用研究センター(FOFIFA) 所長

中村憲児 日系セタパール財団(CETAPAR)パラグアイ(CETAPAR) 理事長

16:20 - 16:35

講演2

グローバル・フードシステムの強靱性に対するコロナ禍のインパクト

Josef Schmidhuber 国連食糧農業機関(FAO) 経済社会開発領域貿易市場部副部長

16:35 - 16:50

講演3

ポストコロナ地球規模課題と農業技術開発アジェンダ

飯山みゆき 国際農研(JIRCAS) 研究戦略室長

16:50 - 17:25

パネルディスカッション

国際連携の在り方

岩永 勝 国際農研(JIRCAS) 理事長

佐藤 正 国際協力機構(JICA) 上級審議役

Marco Wopereis 世界野菜センター(World Vegetable Center) 所長

Nteranya Sanginga 国際熱帯農業研究所(IITA) 所長

chair 齋藤昌義 国際農研(JIRCAS) 企画連携部長



17:25 - 17:30

閉会の言葉

未来へ向けて

小山 修 国際農研(JIRCAS) 理事



*オンライン・日英同時通訳(日本語・英語両方チャンネルでリモート参加者とつなげる)

JIRCAS 50 創立 周年記念 国際シンポジウム2020

ポストコロナ時代のグローバルフードシステムをとりまく
地球規模課題の展開と農林水産業研究における国際連携の役割

講演者・パネリスト



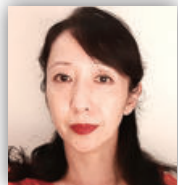
岩永勝: 2011年より国立研究開発法人国際農林水産業研究センター(国際農研/JIRCAS)理事長。海外の国際農業研究機関にて30年近く活躍し、国際植物遺伝資源研究所(IPGRI、現 Bioversity International、イタリア; 1992-2000)、国際とうもろこし・小麦改良センター(CIMMYT、メキシコ; 2002-2008)所長、など要職を歴任。Ph.D(植物遺伝育種学、米国ウィスコンシン州立大学)。



小山修: 国際農林水産業研究センター(国際農研/JIRCAS)理事。農林水産省(1979年入省)を経て、国連食糧農業機関(FAO)(1986-93)と国際農研(1993-)で国際的な食料事情の計量経済分析に従事。2002年から国際農研の研究戦略の策定も担当。2015年から現職。専門は農業経済学。



Josef Schmidhuber: 国連食糧農業機関(FAO)経済社会開発領域貿易市場部副部長。計量経済学専門家・シニアエコノミストとして、FAOや経済協力開発機構(OECD)等でキャリアを積み、政策文書も多く手掛ける。専門分野は商品市場分析、貿易・栄養・投資、気候変動の農業へのインパクトなど。PhD(経済学)。



飯山みゆき: 在ケニア国際農業研究機関(ICRAF)での10年を含めた約20年間、主に東アフリカ・南部アフリカ小規模農業システムにおける技術採択をめぐる課題に取り組む。2016年4月より国際農林水産業研究センター(国際農研/JIRCAS)勤務、2019年4月より同センター研究戦略室長。博士(経済学、東京大学)。



佐藤正: 1990年農林水産省入省、林野庁・企画課長、水産庁・加工流通課長、農林水産省海外投資・協力グループ長、外務省地球環境課長を歴任。2020年1月より、独立行政法人国際協力機構・上級審議役として、食料安全保障、農業、栄養、生物多様性、海洋環境、森林、砂漠化を担当。東京大学法学部卒、Tufts University修士号取得。



Marco Wopereis: 現在、在台湾の世界蔬菜センター(World Vegetable Center)所長。現職以前は、アフリカ・ライスセンター(ベニン)副所長。その他、在アジア・アフリカの国際農業研究機関にて、国際農業研究に従事。国籍はオランダ、ワゲニンゲン大学で博士号(熱帯農学)取得。



Nteranya Sanginga: 2011年11月に国際熱帯農業研究所(IITA)所長就任。現職前は、2003年から8年間国際熱帯農業センターの熱帯土壌生物肥沃度研究所(CIAT-TSBF)所長を務める。IITAは農林水産省の支援を受けヤムやササゲに関するプロジェクトを国際農研などと実施。コンゴ民主共和国出身、農学博士(農業・土壌微生物学)。



齋藤昌義: 国際農林水産業研究センター(国際農研/JIRCAS)企画連携部長。東京大学大学院農学生命科学研究科・博士号取得(食品化学・食品技術)。

